

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100991		
法人名	社会福祉法人西寿会		
事業所名	グループホームはまなす		
所在地	〒038-2412 青森県西津軽郡深浦町麴木字津山91		
自己評価作成日	平成25年9月5日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成25年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者一人ひとりの能力に応じた手作業や趣味活動の援助を行っている。また口腔ケア、手洗い等を徹底している。音楽療法士・レクリエーション指導専門員のもと余暇を楽しんでいる。家族との繋がりとして月1回の家族への広報誌発行にも力を入れている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームからは海と山が一望でき、自然の中で四季が感じられ、また広くゆったりした雰囲気の中で、入居者一人ひとりが余暇を楽しみ過ごしている。町内のグループホームとは積極的に交流を図ったり、地域の行事に参加したり行事に近所の方を招いたり、グループホームが孤立しないように地域のつながりを大切にし、地域に根ざしているグループホームである。母体施設と合同で勉強会を開いたり、委員会を立ち上げサービスの質の向上に努め、入居者、家族が安心して過ごすことができる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「敬愛」を理念とし笑顔・輪・優・一家団欒をホーム内に掲示し、全職員が理念を理解し、日々のサービス提供に努めている。	理念は「敬愛」をもとに笑顔・輪・優・一家団欒と家庭的な雰囲気、地域の人々と支え合いながら暮らすという地域密着型サービスの意義を踏まえたものであり、理念はホールに掲示され、職員がそれを振り返りながら日々の業務に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事に参加し、日常の散策時に地域の方と談話したり、施設行事への参加の呼びかけや防災訓練への協力要請等を行っている。	行事(夏祭り・敬老会)で地域の人を呼んで交流を図ったり、ボランティアや小・中・高の体験学習、インターシップ(就業体験)の受け入れ、保育園との交流など積極的に行っている。また散歩の時にも近隣住民と談話をしてコミュニケーションを図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や学生のボランティア・研修の受け入れをいつでも行っている。認知症に関しての相談を居宅介護支援事業所と協力し行っている。またプライバシー保護に関しては徹底周知している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間計画に沿って行い、委員の情報や意見、アドバイスを頂き改善に努めている。自己評価や外部評価の結果については資料を添付し、改善策等の話し合いを行っている。	2ヶ月に1回開催され、役場職員、法人役員、西北五のオンブズマン、民生委員、家族、管理者、計画作成者などが参加し、情報交換や報告など積極的に行われている。会議後は報告書にまとめ職員に回覧し、そこでのアドバイスや意見を活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場、地域包括支援センター、社協等に広報誌を配布している。町で月2回開催されるサービス担当者会議やケア会議に出席して情報交換やサービスの向上に努めている。	月2回行われる包括会議にて情報交換を行ったり、必要時は役場に電話や出向いたりし、連絡を密に取り、良い協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束は行わないという姿勢で、日々過ごしている。施錠は戸じまり以外にはしていない。	母体施設と合同で勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。マニュアルも整備され、いつでもケアの振り返りや確認ができるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、虐待防止の徹底を図っている。虐待についてのニュース報道があった場合などは朝のミーティング等で管理者より指導と注意がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師による園内研修を行っている。日常生活自立支援事業を利用されている方がおり、職員も制度の把握ができるよう勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、理念やケア方針等の取組みについて十分に説明し、同意をいただいている。入居者や家族の意向を十分に聞き、ケアプランに反映させている。退居時には関係者に情報提供を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との話し合いを日常的に行い、意見・希望・苦情等の対応している。運営推進委員の中に西北五オンブズマンの委員がいて、話し合いをして頂いている。又苦情解決第三者委員を設けている。	入居者からは普段の会話や、オンブズマンを通して意見や要望を聞き入れ、家族からは面会等で意見や要望を聞いている。また、入居時に外部へも苦情や意見等を表せることも説明している。	苦情や意見等を外部へ表せることを入居時以外にも説明する機会をもつなど、より意見等を出しやすく運営に反映される取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議の中で意見交換を行っている他、母体施設との合同職員会議において、意見交換や情報交換を行っている。又職員の意見を取り入れた事業計画を作成している。	月1回のスタッフ会議で職員に問題提起してもらい、意見交換を行っている。また母体施設との合同会議も行われ意見等を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に準じて行っている。常に職員の意見を求め、反映に努めている。産業医による巡視もあり、衛生安全委員会が主となり環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て実施、園外・園内研修を積極的に行っている。資格取得については勤務の配慮等を行っている。又、母体施設との勉強会を行い出席している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの見学や情報交換をおこなっている。また町主催のサービス担当者会議やケア会議に出席し、他グループホームのケアマネジャーと情報交換や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行って本人や家族の意向を聞き、アセスメントを行い、本人の心身状態や思いを受け止めている他、家族との話し合いに重点を置き信頼関係を築くよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行って本人や家族の意向を聞き、アセスメントを行い、本人の心身状態や思いを受け止めている他、家族との話し合いに重点を置き信頼関係を築くよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、本人や家族のニーズに対応できるようにしている。また居宅支援事業所や地域包括支援センターから情報を得て、必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあえる関係づくりに留意し、支援する側、支援される側と意識せず、お互いの得意な部分を引き出し、協力し合い、和やかな生活が営まれるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの情報収集を行い、本人の思いを伝えたり、家族の思いを伝えたりし、お互いの思いを大切に共有できるよう職員が間に入り支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来て、くつろげるような場所を提供している。行きつけの美容院に行ったり、来ていただいたり、以前の生活スタイルを大切に支援している。	デイサービスに遊びに行き、馴染みの人との交流を図ったり、馴染みの美容院に行ったり2ヶ月に1回は来ていただいている。馴染みの関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となり、日々の行動について見守りを重視した働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合(入所・入院・在宅)には、面会や行事へ招待し交流をしている。特養に移った場合は情報提供はもちろん、毎日顔を合わせるので会話を持ち交している。家族の方も面会の際立ち寄ってくださる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時はもちろんのこと、入居後も聞き取りを充分に行い、必要に応じて本人を知る関係者等から情報収集を行っている。	入居時に本人、家族から聞く以外にも、入居者からは、普段の会話やそれが困難な場合は行動等から意向を把握し出来るだけ本人の思いに沿った支援をしている。家族からも面会時などに聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は本人、家族から情報収集し、入居者一人ひとりの生活リズムを把握し、プライバシーに配慮しながら全体像を感じとっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での行動や体調の変化を観察し、個人を理解し、支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、アセスメントを行い、職員全体で介護計画を作成し、モニタリングやカンファレンスを行っている。	本人や家族から意向を聞き、職員で話し合い介護計画書を作成している。6ヶ月ごとに見直しを行っているが、状態変化時はその都度見直しし、本人の状況に即した介護計画書となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の様子や身体状況等本人に関する全ての情報が見られるよう記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院送迎、通院援助、外出支援を行っている。医療面においては母体の看護師に相談、援助をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、婦人会、消防分団、消防署等の協力により、防災訓練を行っている。学生・婦人会等のボランティアの方たちが日々支援に協力してくれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診がほとんどである。またかかりつけ以外にも協力病院があり通院介助も家族の同意のもとで行っている。	入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。協力病院の往診もあり、また家族にも受診を協力してもらおうこともある。通院後は家族にすぐに電話にて受診結果を報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体施設の看護職員と相談できるシステムづくりをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を通して、早期に退院できるよう医療機関へ働きかけをしたり、面会時に病院側との情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いにより、かかりつけ医との連携を密にし、対応できる体制づくりをしている。	終末期や重度化した場合には、早急にかかりつけ医、家族、本人と話し合いをし、方針を共有し支援している。家族が必要に応じて付き添いでき、いつでも泊まれるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。又職員は救急時の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害を想定し、年5回の訓練を行っている。年2回は消防署・分団・地域住民の協力を得て行っている。防災委員会・安全委員会を設け問題ある時は随時検討会を開いている。	年5回、火災や地震を想定した避難訓練を行っている。年2回は、消防署や自治会、婦人会など地域住民の協力も得て、母体施設と合同で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に配慮し、プライバシーを損ねないように常に心がけている。	入居者に対する言葉かけやプライバシーを損ねないさりげない介助を徹底し、それを普段から実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意見を取り入れ、本人が選択しやすい場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、その時の状況に応じた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	かかりつけの美容院に行ったり、来ていただいたりしている。洋服や整容に関しては常に心を配り支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	郷土料理や入居者の得意な料理を献立に取り入れたり、下ごしらえや味付け、後片付け等入居者と一緒に行っている。行事食の時はバイキング方式、野外食も行っている。	下ごしらえや片づけなどを一緒に行い、季節の食材を取り入れた郷土料理や行事食を取り入れ、入居者は食事を楽しみながらとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がカロリー計算を行い、栄養指導を受け、嗜好調査や残量把握を行い、検食日誌を記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前・食後、おやつの前後のうがい手洗いを心掛け、食事前の口腔体操をおこなっている。言語聴覚士による指導も必要によって行われている。個々にあった歯磨き指導も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿チェック表を利用し、個々の排泄パターンの把握をしている。プライバシーを損なわないように声がけしながら支援を行っている。	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、トイレ誘導や見守りを行い自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を探ると共に、食材や献立にも工夫し運動の働きかけも行っている。場合によっては主治医の指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日・時間帯については決められているが、希望があった場合は対応できるよう配慮している。	週3回入浴できるようにしているが、状況や希望に応じてその都度対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な活動により生活リズムを整え、早く就寝できる様に支援している。必要に応じて医療機関に相談し、眠剤を服用している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認につ努めている。	処方された薬の内容を個人ケースに綴り、職員が内容を把握できるようにしている。又、本人に手渡し服薬できているか確認している。内容の変更があった場合は、本人や家族はもちろんのこと職員への申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や趣味、特技等を把握し、その方にあった役割や楽しみごとを活かせるよう働きかけている。町主催の文化祭には個人の作品を出品し、生きがいに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、地元のイベント等に出かけたり名所めぐりや遠足等も行っている。他グループホームとの交流も年2回行っている。	天気の良い日は散歩をしたり、ドライブや買い物などへ出かけている。家族にも協力してもらい遠足等も行っている。また地域のグループホームの交流会へ出向き、入居者がレクリエーション等で交流を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て、小遣い程度の所持金を持たせており、安心感と満足感が保たれるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話ができるようにしている。近況報告を兼ね担当介護員が本人と一緒に電話したり、遠方のご家族には写真を添え手紙を代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風造りの建物で、居間からは庭や畑が見え、季節感が味わえる。共用部分はほど良くゆったりできる広さである。	共用スペースにはソファが置かれ、庭や畑が見える。広くゆったり過ごすことができ、窓からは海や山が見え、季節感を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	絵画や観葉植物を飾り、居間や廊下、多目的ホールを利用し、趣味活動や語らいを楽しむことができる。海側の廊下から見る夕日は最高です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、自宅で使っていた家具や愛用品を持ち込むことは自由である。居室にはテーブルと椅子が置かれていて寛げる。	自宅で使い慣れたものを自由に持ち込むことができる。また居室には椅子とテーブルが置かれ、ゆったりと居心地良く過ごせる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室名は地元で獲れる魚の名前を方言でつけおり覚えやすい。廊下・トイレ・浴室等には手すりを設置し、個々の身体状況にあわせて、車椅子や歩行器等の使用が可能である。		